

2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

②地域住民の主体的な参加を引き出すしくみ・体制整備の例

兵庫：博物館が中心となった一般市民を対象とした里山連携講座の実施

「里山連携講座」は平成19年度の夏に開始された講座である。当該地域内の各地で開催されている里山講座などの主催団体が連携して一つの講座を開講し、団体受講者の交流および講座の効率的な運営を図ることで、一般市民が里山林管理に関する学習の機会を提供することを目的とした新しい試みである。

この講座は、兵庫県立人と自然の博物館、兵庫阪神北県民局、兵庫県立有馬富士公園、兵庫県立一庫公園、箕面山麓委員会などが連携して開催しており、研究機関である博物館と、里山管理の場を提供する公園、そして行政の三者共同事業であるという側面も持ちあわせている。

講座は連続で3回行われた。この講座では、放置された里山をかつての伝統的な里山林として復元するのではなく、新たな価値を持った「環境林、文化林」として再生させるための手法を学ぶことを目指した。講座のメニューは次のような内容となっている。

- ① 望ましい環境林、文化林の目標像を明らかにするため、生態学の基礎知識や里山林の現状についての講義を受ける。
- ② 野外で植物や植生の観察を行うと共に、植生調査の実習を行う。
- ③ 上記の調査結果をもとに問題点を整理し、望ましい環境林、文化林としての里山管理の手法を参加者が自ら考えながら実践する。

講座には周辺地域のボランティア団体だけでなく、遠く大阪府箕面市のボランティア団体や、森林ボランティアグループや一般からの個人参加もあるなど地域外からの参加者も多く、受講生が100名を越す賑やかな講座となった。



熱心に講義を聴く受講者



野外実習の様子